昭和二十五年（1950）　定價一ヶ月五十圓　一部賣二圓　磐城毎日新聞　五月二十五日（木曜日）　第3号　（日刊）

磐城毎日

發行所　福島縣平市南町六六（平局區內）
株式會社　磐城毎日新聞社
編集兼印刷發行人　遠藤孝倫
（電話架設申請中）

御愛讀下さい

學園の理想境鎌田山
市立二中校舍愈完成

平市立第二中學校は市內鈴木株式會社（鈴木正平社長）の手により工費一千二百万円を以て鎌田山に起工され鋭意完成を急いでゐたが六月三十日までは竣工することになつた

本校敷地五千坪、建坪九百坪總二階建て學級數十八生徒一千名を收容出來る大規模なもので既に八百六十名の生徒が通學中で、風光明眉な夏井川の清流を眼下に環境的にも教育殿堂として適したところとされてゐる

高台にある為め飲用水の不便をかこつてゐたが、水道工事も進捗中であり不便は一掃されることになる、當中學は平市豫算により建設維持は舊神谷村と組合經營をしてゆく目的であつたが神谷村も平市に合併した結果前記の事情は解消され純然たる市立第二中學となつて落成の日を俟つてゐる。尙通學區域は神谷支所の全部と市內の一部である

（寫眞は平第二中學校舍）

◦學級新聞◦

平市第三小學校の三學年生及び受持の中野正二郎先生に依る三年タイムスは保護者先生のれん絡及び教化指導へ為め去る五月一日より月刊紙として發行することになつた

保姆主任研究會

來る二十七日十二時より平市一丁目鷹崎保育園に石城郡保姆主任研究會を開催する、研究事項＝六月カリキュラムの作成

―戰災都市復興―
今秋報告大會平市に

戰災復興土地區劃整理委員會東北地區連合會第五回大會は今秋十月建設省係官全國東北各連絡連合會長及新潟、青森、福島、岩手、宮城、山形の各委員が參加平市に集り戰災都市復興の經過報告と今後の對策等に就いて協議することになつた

公民館運營講習會

公民館運營指導者講習會は本日午前九時より平市第一小學校に開催するが參加者は內郷以北の各市町村公民館長並に主事、同じく社會教育委員、公民館運營審議會の代表者で講師は社會教育課佐々木幸氏、石城教育會草野仁氏同高木マタエ氏內郷公民館主事走十興榮氏、泉公民館主事吉田勇二氏である湯本以南は二十九日植田小學校に開催する

平市教員組
合選擧對策

平市教員組合では委員會を來る二十七日九時より平第三中學校に開催する、協議事項一、報告　選擧對策委員會中央闘爭執行委員、部長會の狀況　二、議事選擧對策斗爭方針の具体化、尚石城支部教員組合委員も參加することになつてゐる

社說
此の項の關心事

今度の自由勞働者が職安や自治署に押掛けて團体交涉を繰り返すことは事實上のろう働攻勢であり關係當局の取扱えの如何によつては騷擾事件を惹起する一歩手前の接觸點に達してゐる危險性が多分にある

連日に亘つてろう働者に包圍されて示威的環境下で職を與えよと要求されても職安所長や警察官ではどうにもならぬ重大問題である。それを見極めてろう働者側は行動をとつてゐるのかどうか、為めにするが為めの嫌がらせでは就職の目的にはならないし的はすれの矢面に立つ關係者官吏こそ迷惑なものでありきの毒なものである

それにしても今迄に團体行動の為辛い經驗を以てゐる警察當局も治安確保の為め万全の策をたてる必要に迫られてゐるし、多數の警官を動員待機せしめることは市の負擔が增大され市民の擔納力にも影響する處が大きいものがあり、斯うした問題が今後も自由ろう働者の手で繰返すならば縣及び國家に於てもしたしく眞相を追及して最善の措置を講ずることが必要である

產業道路
開鑿起工　久ノ濱

久ノ濱町が失業者救濟を兼ね產業道路開鑿の為め工費貳百貳十万円を以て驛より隆光寺線幅六米突延長八百米突の土木工事は町理事者の拔打ち的な發表と町關係委員及び地主間の折衝なきため二十余名の地主から猛烈な反對を受けて事業着手に至らず頓坐してゐたものであるが、豫定線潰地買收價格その他の條件を容れて妥協成立を見た、起工式は二十三日町有志多數參列して行つた

スト

襲擊

有名な磐城に
不名譽な磐城？

騷擾

なぞなぞ

全國的に濱三郡の名物として紹介され郷土の誇りとするに足りるものも少くないその內で商品として全國一を誇るものは常磐石炭は勿論のこと、富岡驛を中心に双相產木炭、年產六十万俵を全國の消費地に移出してゐるのと、四ツ倉產セメント屋根瓦が地元に原りよう良質砂とセメント工場を持つてゐるので生產コストの上でも他の絶對追從を許さぬ條件下にあり、他の業者と太刀打ちできるものがあり生產高も之亦日本一で全國的に認識されてゐる

×　×

ところが其の品質に於て双相木炭は戰時及び戰後に於ていさゝか品質を落してゐたと云はれて居り、今は人氣を取り戻してゐるかも知れないがセメント屋根瓦の場合も全面的に今尚人きが落ちてゐる、それは需要の激增した全盛期に粗惡品の濫造販賣が原因であることは業者自身が何れも認め、これが名聲の恢復に躍起となつてゐることは事實である、一度惡評を買つた以上その人きを取り返すことは容易なものでなくこの虚を突て焼きがわらが市場に進出し磐城セメント瓦業者を窮地に陷しいれてゐるのは獨りの業者のみでなくセメント瓦製造業者全体の致命的な重大問題となつてゐる

×

これは他の業者の濫造品の販賣からでもあらうが磐城地區製品にもこの事實は見逃すことが出來ないし將來への信用恢復が必要であると思つてゐる矢先に今度石城地區の出稼勞働者の一團が石城の勞働者は使はぬと縣外から締出しを喰つた問題が惹起した、まだことの眞相の把握してゐないので是非の斷定は出來ないが、郡內から多數の失業者を出して ゐる現在のところ地元消化不可能な狀態から推して之れ等のろう働者を縣外消化に振り向けることは刻下の急を要する政策として取り入れるべきだつた、その先發隊が締め出しを喰つたことは就職難に拍車をかけた譯だ……孝倫生

×　×　×

それでなくとも炭鑛スト、土木監督所、職業安定所の襲擊、團体攻勢と警察署占據事件など何れ事件の性質は異にしてゐるが世相と共に人心に與える先入感に甚だ不利を招いてゐる、二十二日の勞働者檢擧に對し次の日は二百名のろう働者が大擧平自治署をかこみ釋放方を要求、事態の惡化を物語つてゐる

×　×

元外地には全國各府縣人が入込んでゐて交際をすると第一に出身地を名乘り合うのを常識となつてゐる、そして「磐城か」と云うことが如何に警戒されたかは外地に住んだ人々のよく体驗した損な事實である、然らばそれ程磐城の人は惡質であるかと云うとそんな譯ではない、彼の有名な德田寬日大生殺しの様な異例はあるが全部が全部惡質な者で出來あがつてはゐないし、惡人は世界の何れにもゐる譯で人きの惡い評判を取つたことは吾々郷土人の遺憾事と云つてよい生產品の販賣や取引上の点でも信用し合つてゆける方法と、親しみ得る磐城人となつて社會生活を營み得る心掛けが必要である、他から爪彈きされて縣外進出も出來ぬ郷土の汚名を取りのけるべきである

官衙職員錄
（其の二）

教育委員會事務局石城出張所

所長心得	古市克惠
專門職員	鈴木鵬
	草野仁
	高木タマエ
	伊藤伊佐次
	助川光夫
	千葉正
	谷鹽敏
	小泉公明
福島縣出納員	鈴木正平
助教輸	鈴木守世
	諸根適
	藁谷多喜子
	高萩マスエ
	二階堂武子
	秋山和子
	栗野喜八郎
	原下惠美子

平開拓建設事務所

所長	川口修二
	飯高儀十
	野崎啓
	堺敏夫
	佐藤二郎
	管野房雄
	齋藤龍一
	庄司孝吉
	石幡良治
	島浩平
	木村エイ子
	木村忠子
	木幡イヱ盬

石城地方町村會

會長	鈴木榮一
副會長	草野寅伊
事務局長	橋本勳
	高木武一郎
	木村浩温
	高木芳久
	速水照子
	木幡ヨシ子
	藤田品子

平公共職業安定所

所長	佐藤忠雄
課長	大和田忠良
庶務係長	渡邊宏
事務官	大和田忠良
勞働事務官	渡邊宏
	渡邊千惠子
	小川實枝子
	佐藤孝子
	佐久間伯光
	鈴木茂雄
	本阿彌秀子
	橋谷田實

△業務課

課長	平山留春
雇用主係長	鈴木正
紹介係長	清野勝利
勞働紹介係長	根本清四郎
監督係長	清水義夫
	鵜沼歲雄
	阿部文好
	深瀨正雄
	小島一夫
	市崎つめ子
	深瀨正雄
	四倉保壽
	阿部傳
	平野ひろ子
	棚木秀雄
	鈴木圭二
	田山親
	今村浩彦
	森本勝雄
	岡田辰照
	五十嵐博
	船生保
	高崎堅四郎
	吉田正夫
	杉山伸
	田中書子
	清水義夫
	阿部傳
	平野ひろ子

△調査課

課長	小松四郎
調査係長	矢內道夫
	瓜田健
	吉田正夫
	平野ゆう三

平、都市復興
本年度豫定決る

平市都市復興事務所では從來都市復興計畫の早期實現に最善を盡して來たが今年度工事の完成に就いてほぼその見通しも付き復興大平市出現も間近に迫つてゐる、今年度の主なる工事は總工費一千三百万円で

▲驛前より工業學校前道路までの三十米道路の完成

▲新川以內大阪造船裏よりガス會社までの十二米道路

▲道路下水工事主に三十米道路

▲下水工事　古鍜冶町―新川

特に三町目三十米道路の立物移轉大谷商店（コンクリート三階立）横山商店等が大仕事だ復興事務所では万全を期し年內完成を計ることになつた

スポーツ、文藝、一般ニース或は善行美談記事を歡迎致します、すすんで御投稿下さい、三、四日中電話もか設されますから電話連絡でも結構です、尙電話番号は一二一〇番です　本社

人生旅日記（3）
平稅務署長
小貫數馬さん

縣內岩瀨郡で生れたので須賀川稅務署を振り出しに仙台、白河、盛岡の各署を經て大藏省主稅局に五年居て戰爭のため平へ三年三ケ月御世話になつて仙台署へ、更に仙台財務局、仙台國稅局で三年勤務し再び平へ戻つて來たので稅以外に何んにも知つてゐません

以前のあなたは

「稅で育ち稅で死ぬ」と云ふ信念で今迄過ごして來ました、大藏省で地方財務課にも勤務したので地方稅のことも幾分知つてゐますので平は人生を通して一番良いコースとも稱すべき時代住む土地なのでこゝで國稅たると地方稅たるとを問はない凡ての稅の研究でもして落ちつきたいと思つてゐます

今後のあなたは

×　×

綴方教室

火山脈
平三小　六年　橋本一子

火山脈と言う映畫によつて色々たくさんのことが教えられました、清作のお母さんが一寸した不注意からかたわでない子供をかたわにしどんなに子どもにいやな思いをさせたかそのために又お母さんも自分の不注意にせきにんをかんじ、あんなに心配するお母さん、あのお母さんがあつてこそ清作はあんなりつぱな世界的な人となられたのです。自分のただしいと思つたことはどこまでも正しいとして通す氣持、私だつたらあんな時きつとお金持や、いきおいのつよいものにおびえて自分ではわるくなくてもそのばではきつとあいての言うまゝになつたかもしれません

えらくなる人は小いさい時からえらいところがあるとはつきりわかりました一生かたわでどうするかと思つた手もいじゆつによつてすくわれたことにかんしんしいしやになつて多くの人をたすけるためどりよくしました。何時も母と手をなおしてくださつた先生にかんしやしながら一生をぎせいにしても思いたつたことはどこまでもやり通すかたいきもちにかんしんしましたこの母あつてこの子ありとよくよくかんじられました

詩

夕やけ
平三中　三年二組　前田佳子

道の角につないである馬の
耳に夕日が照り映えて、桃
色にすき通つている
雲もあかね色に、美しく染
つて居る
入日がまぶしい、明日はよ
い天氣であるように……

つゆ

さくらの枝を折つて
花びらのつゆをなめてみた
指につけてなめてみた
甘いようなつゆ、にがいよ
うなつゆ

雨

ざざーつと窓に降り掛る雨
ひゆーつと電線のうなる音
雨の音にまじつてバスの警
笛が聞こえる
いつまでも降りそうな雨、
びしよびしよと降る雨
地の底の底までしみ入るか
のように

巷の声

◎選擧が近づくといつも思うのだが、日本人は政治とか、文化とかに關心を持つているのかどうか判斷に苦しむ立候者は筍のように出るが、我々選擧人にしてみれば、失禮な言い方かも知れないが、まあ似たようなものという感じがする。第一、これ以外の人はいないのか、之が日本政界の人々として選んでいゝのかと迷うのだ、正直な話である

◎毎朝―といつても時々だが、七時半からの政見演説（?）をきいていると、話のうまい人が當選しそうな氣がする…又、選擧運動の樣子では要領のよい者に分がありそうでもある、綱渡りがうまいと昇進するというリリパト國を思ひ出させられる

政治は一種のスポーツさと嘯く人もいる。義理があるという言葉さえ耳にする政治も文化である、文化國家が泣かないような、そしてガリヴアーに二度と驚かれないような選擧であつてほしい、眞劍な話であると或る一篤志家匿名氏は語つてゐる

慶弔錄

（二十三日届出）

出生　十三日平市舊城跡六間門會田稔（長男）秀一△十八日平市字立町九三桑原太郎（長女）美千子△十八日平市字大町四五佐々木傳（二女）道惠△廿一日平市字新川町十九增子（長女）美知代△十七日平市字材木町十八筒井菊次郎（二女）幸子

死亡　廿二日平市字立町百增子美知代△廿二日平市字長橋町六六伊藤重次

常磐線列車の犯罪

主食違反、不正乘車は增加
手口の巧妙に公安官は忙殺

常磐線列車が一時魔の列車として乘客を震えあがらせたものであつた、最近に至つて列車內の犯罪が東北本線に移行してゐる、それでも常磐線列車の犯罪が姿を消した譯ではない、平驛に鐵道公安室が新發足をしてからでも相當の犯罪列が車に乘つて走つてゐる

參考に去る四月中の犯罪統計を見ると五十一件に達してゐる、その內譯は强惡事件はないが、不正乘車が一八件、スリ六件、主食違反五件である、然し主食や雜穀の置き去りは二十八件もあつたこれが檢擧數に加へ入ると犯罪數もぐんと增加することになる窃盜と置引きが各四件で暴力行爲は一件、その他でヤミ取締りを取除けば刑法犯が十一件で三日に一つの事犯が行れてゐることになる、これに就て公安官の話を聞くと犯罪も季節とは密接な關係があり秋から冬にかけて事件の發生もぐんと減るし春から夏にかけて增加して來てゐる、亦スリ、不正乘車、主食違反等は最近とみに犯罪手口が功妙で係官の手を燒くものがあるそうだ

農地交換分合の

促進等協議會終る

昨廿四日午前九時より石城郡農協議會役員會を開催、決議事項は左の通り

一、會長、委員書記及び必要に依り農民その他の者を招集しのう地の交換分合、土地改良事業、のう地調整法自作のう特別措置法について講習會(協議會)を開催し趣旨の徹底と共に事業の促しんを期する

二、土地改良事業並びにのう地の交換分合促しんの爲めパンフレットの配布

三、のう地の交換分合推しん優良農地委員會及び會長ゐ員書記の表彰

四、國有牧野解放の徹底及びのう地改革成果の實態調査

五、のう地ゐ員會の連營法

これに依つて漸く下火になつてゐたのう地改革へと共の方針を變へて再發足することになつた

石城ら合併には何の異存もないので內鄕側の成行きによつては以外に早く實現されるものと見られてゐる

河內開拓。

道路施設決定

石城郡上小川村奥地の河內林野は二十二年縣開拓課の肝入りで十七戸の開拓入植者によつて開こんをなしつゝあるが小川村から約二里の間道路がないので運搬や交通上入植者の不便を解消する爲め昨年十月新潟縣共和土木株式會社の手で道路開鑿中の處上小川村では更に今回開拓道路改修促しんゐ員會を結成、村會副議長が關係方面に呼びかけ追加豫算二千六百万円を獲得した爲め三ヶ年計畫で林間步道を實現させることになつた

タイヤー配給

平市社會課では市內各會社官衙の災害救助用として割當を受けた自轉車用タイヤーチユーブに余剩が出たので昨廿四日より先着順に配給することになつた、希望者は印鑑持參の上同課へ、價格はタイヤー一本三百八十一円、チユーブは一本八十四円である

羊毛を種に

八萬圓詐取

平市紺屋町料理人細山武雄(三七)は昨年六月田村郡三春町字淸水獸醫菅原勝穗(五七)さんに羊毛を世話すると僞り八万圓を詐取した疑いで二十三日午後十一頃平市署に檢擧された

炭礦企業整備で

●●離職失業者六百名●●

失業者の大量氾濫をせしめた直接の原因は炭礦事業の縮少及び中止にあることは事實で本社の調査するところによれば石城双葉管內企業整備鑛は本年三月以來十炭礦五百八十名で其の內譯は龍田炭礦双葉郡龍田村三六八(一八二)大日本江藤鑛、石城郡川部村三五(一八)双葉炭礦双葉郡木戸村四〇(四〇)大日本三澤新鑛石城郡川部村四〇八(二一三)藤岡炭礦双葉郡久之濱二一(二一)万壽鑛石城郡田人村五五(五五)常磐湯本一二五〇停年整理四六名となつてゐる

疫痢發生

平市久保町一二番地大槻愼一(三ツ)ちやんは二十三日疫痢で隔離された

內鄕町一部合併

交涉市役所で

飯野、神谷の兩村を合併して間もなく今度は內鄕の一部小島部落が平市に合同すべく運動を開始、合併賛成者のしよ名を受けて母町議會に陳情すると共に本日午後一時平市を訪れ第一回交涉を開始することになつた市側としては地理的條件か

腸チフス發生

湯本町に

石城郡湯本町大字關船字堀田農業北鄕ハツ(三三)さんは廿四日腸チフスと判明、直ちに高倉隔離病舍に收容された

集團强姦

事件公判

石城郡湯本町大字湯木字淺貝九〇土工早尾幸一(一九)同土工上遠野利夫(三〇)同炭礦夫渡邊義敬(三三)同採炭補手永尾三藏同字天主崎三八土工濱尾市太郎(二四)同字錦澤一五〇土工讃岐繁夫(三九)同字水野谷字亀ノ尾上四〇炭礦臨時夫渡邊一夫(三二)同土工佐藤春義(一九)等八名にかかる强姦傷害の公判は二十四日平簡裁で行はれたが新容疑事實を認めたので近く檢事の實地檢證が行はれる予定

持逃げ犯人　東京生れ住所不定無職馬場一男(三〇)は愛知縣豊橋市前田町ブローカー野崎茂方に傭はれ、はたらいてゐたが四月十五日主人の銀行予金千円を下して來いと頼まれたのに來じて一万五千円も拂戻其足で逃亡してゐたが二十一日平市しよに逮捕された

自轉車泥

二十一日石城郡算輪村大字大利住所不定無職遠藤武(三七)は去る四月二十七日石城郡好間村上好間本間信治云さん方から中古自轉車一台詐取横領した疑いで平市しよへ

魚菜相場

【青果市場】

二十日四現在總集荷三千貫

(單位一貫目)

新じやが芋	八〇—六五円
たけのこ	一〇〇—七〇圓
キヤベツ	二二—一四圓
葉玉ねぎ	四〇—二五圓
ふき	六〇—二〇圓
人參	一五〇—一二〇圓
ごぼう	一二〇—八〇円
かぶ	五〇—一五円
へら菜一パ	二五—一五円
きうり	一本七円—三円
特大夏みかん(山口)	一〇目貫一〇〇〇円
大寶〃	九〇〇—八〇〇円
鶴印〃	八五〇—六五〇円

初夏の夜飾る

ネオンサイン再現

新緑の頃ともなれば淸新な果實や野菜が店頭に山と積んで氾濫するし、初夏の訪れを報する、鰹もいきいきと店先に並んでゐる。街行く人の姿も急瀨な暖氣の襲來で衣替えがされてゐる。夏姿はすやすやしく何とはなしに人の心も浮き立つて來た戰時中の希望の失つた生活様相も一枚つゝ剝き取られて都會も田舍も明るさは日と共に增してゐる様だ

▽……△

昔不夜城と化したネオンの街は流行をきわめてゐたのに戰爭の激化と電源節約の犧牲となつて街から悄然と影をしそめたのだつた、それが戰災復與と相俟つてネオンサインの街が再び出現し始ようとしてゐる、市內電氣工事請負業者間にもネオン取付注文かあり、仲町瀧川商會では目下喫茶さざ波のネオンが製作中でありつゞえて各映畫館も設計が急ぎ、先を競つて取付を急いでゐるので間もなく、むかし戀しいネオンが紅く靑く街の夜を彩る日も玆數日をたつまい

▽……△

市民から忘れられてゐたネオンの再現について製作者瀧川さんは

電熱過剩と生產部面の常態復歸が戰前の裝飾宣傳用として、ネオンの再登場した譯です。値段のことは半坪で三万二千円から四万円位となるが、色別により値段の高低がありあの憂うつな光りない夜から明るい夜が現出さる日も近いでせうし、私達も出來るだけ取付奉仕を致します

と語つて居る

商店街も今迄の戸締型を破つて宵の販賣戰術に出るならはさらでだに暗い夜を明るく繁華街夜の平も親しみ深いものとなり賑振することであらう。亦市民の一部でも夜の平を明るくするには何とか商店の營業時間延長をと希望してゐるむきがあり、鈴蘭灯と共に都の情しよをそゝるネオンの下、何かしら昔に想ひを馳せるものがあるし、夜間營業への糸口ともなりはしないかしら

レンズは映す　あの人この人

安積中學校に學び全國藥醫界から推されてゐる竹中稲美氏は來る三十一日午後七時二十分から八時迄の間にラジオで政見放送すると云ふ、勿論職能代表の一人ではあらろが今騷いでゐる藥劑師とゐ師然しこんな關連ある連中が當選して議會で論議あつて中庸の說で結論を得で醫藥醫業の今後の法規が決定付けられることにもならう講談なとに現れてゐる竹中半兵衞の末孫とかで名門の出である大兵肥滿の二十二三貫、本年滿五十二才の彼は其の頑健なる體格に燃ゆるが如き鬪志に知行一致の理念を以て生涯の奮鬪を物語るものであらう、肩書を調べれば前日本藥劑師會副會長、內閣社會保險制度調査委員、厚生省ゐ藥制度調査委員、醫學教育審議會委員などを有してゐる、文化日本の建設に社會保障制度の確立には卒先して努力すること請合でもあらう現參議院議員であつて文壇の重鎭作家山本有三氏不朽の作とまでにうわれた「路傍の石」これこそ竹中稲美其の人をモデルにしたものだと云ふ、作中登場する一少年が飢餓と困窮のはては已が一命を鐵橋の露と果てんものとする一さつ那、再び生き拔かんと鐵橋にぶらさがりながら再生を誓う言葉は?貧しくとも堪えて辛くとも切り拔けていこう……これが氏の今日をなさしめた發奮努力の合言葉なのである

以上の記事を書き來つた時、彼の一貫した骨身を惜まず働く男、力を盡して働く男、仕事に熱のある男、これでこそ議會人としても働ける男と思はれる、苦學力行の立志傳の氏は各藥學校に教鞭をとつたことも聞き及んでゐるが、靑年時代の數奇なる運命に今は思慮分別が愈々熟し、人生の花も是から實を結ばうとする年頃でもある

東京大森驛前通りに千客万來のやく局を持ちこれを奥さんの仕事として常に南船北馬の公職に寧日ないが宴席などで陶然たるとき正調博多節、安來節、秋田おばこなどの民謠に獨得の妙ていなどに拍手の連續に一同氣を遠くさせるあたり各地旅行の特產物かも知れない、是れは余談としても氏にとつては初名乘りの一番勝負の大奮戰であることは五十六名に對し五、四倍の激戰を後十日の決勝めざして全國の各地で血みどろの活躍をして居ることでもあらう、賣名に出た彼でもなく名譽心を一時の稼ぎにしてゐる彼でもあるまい、大いに議會人としての理想を實現させたいものにある

全國區參院候補

竹中稲美氏

參議院選擧を目前に控え選擧熱も愈高潮、各候補もあの手この手の新戰術を編み出して全國區地方區入乱れでの白熱戰を展開中、此處で我々はよしく胸に手を當てゝ考えよう、今までの國會といゝ、縣會といゝ子供達の自治會にも劣る有様——乱斗、空席、居睡りの議場——かゝる議員様を選出したのは誰ぞ?責任は我々に在るのみ

來る六月四日には過去の選擧の結果を反省し、選擧についての認識を新たにして眞に我々の代表たるべき信頼出來得る實際せい力に富んだ人物に淸き一票を投じようではないか

寫眞藝術へ
精進!!
平四・本局前
金太郎寫眞部

職業案內

▲事務員募集　場所—平市某官廳　採用條件—イ、年令二三—三〇才まで、ロ、學歷舊制中學校卒業以上、ハ、待遇—官廳給與令に依る、徒步通勤可能なる者

△急募男女外務員人員、二十名、資格中等學校卒業年令二十—五十才まで月收、五千円以上勤先平市才槌小路二四東京生命平支局希望者は平職業安定所え

職安事件五名逮捕

逸走した安藤に追及中

昨報職安事件で檢擧された內鄕自由ろう組佐久間連合會長(共產黨員)川端組合長の即時釋放を要求し赤旗を押立て大學職業安定所、自治警察署へ押しかけた平內鄕の自由ろう組指導者と見られる野崎峰平自由ろう組長高萩哉(三七)安藤宏(一八)加藤キヨノ等四名と佐久間川端の六名は公務執行妨害で逮捕狀が發せられ內野崎峰、加藤キヨノは即日逮捕されたが高萩善哉、安藤宏は逸早く姿をくらまし逃走中高萩は二十四日午前十一時二十分頃內鄕町しよに檢擧された、これで職安事件指導者未逮捕はあん藤一人となつたなほ佐久間、川端の兩名は二十日四午後三時で拘留滿期となるが證據が十分なので檢事拘留によらないで送檢される見込みである

本社重役

强口夫人永眠

本社重役强口唯七郎氏ヤス子夫人は病氣治療中の處二十三日午後九時二十九分永眠された、葬儀は明二十六日午後二時自宅に於て取り行はれる

トラック暴れ

商店に突入

昨夜十時澤渡村三瓶材木店トラックは市內紺屋町五八鈴木靑果物店に進入店舗を破壞した

懸賞觀光寫眞募集

四倉町の鳥かん圖調製と觀光地として廣く天下に紹介するために左の規定によつて同好の士からキャビネ型寫眞を募集しますから奮つて御應募下さい。なお當選寫眞は原板をいたゞきます

一、區域　波立藥師から新舞子まで

一、期間　六月十日締切

一、等級　一等、二等、三等(一名にて何点出品するも差支なし)

一、賞品　一等—四倉一級旅館アベック一泊券と御土產付▲二等—四倉一級旅館一泊券と御土產付又は各旅館アベック中食券▲三等—各旅館中食券▲等外佳作には四倉土產進呈

一、審査員　梅原利三郎氏、草野央氏、梅崎安正氏(石城寫友會員)佐藤榮喜氏、豊田美孝氏、小湊正氏(四倉觀光協會員)(版權ば當協會の所有とします)

主催　四倉町觀光協會

後援　石城寫友會

當選寫眞は平市壽、三井兩百貨店、大黑屋洋品店、マルトモ書店、四倉町各旅館の店頭に掲示します

妻ヤス儀長らく病氣療養中の處やく石効なく五月二十三日午後九時二十五分永眠致しましたので生前の御好誼を深謝し御知らせ致します
追つて五月二十六日午後二時自宅出棺平市菩提院に埋葬致します

昭和二十五年五月二十四日
好間村川中子八方屋一八
喪主　志賀金七郎
强口唯七郎
親戚總代　安島利彰
友人總代　蓮沼龍輔
磐城土建工業株式會社
磐城貨物自動車株式會社